

# 「住みよいまち」を「住みたいまち」に

「都市データパック2025」から見る「住みよさ」とは

東洋経済新報社が毎年発行している「都市データパック」という分厚い本があります。そこには、全国812の市、特別区の統計データなどをもとに数値化した「住みよさ」のランクづけがされています。今年公表された結果で、大竹市は全国で20位、中国地方で下松市、倉吉市に続く3位、県内では4年連続1位という評価を受けています。「住みよさ」の基準は、人それぞれです。個人の事情や、ときには感情にも左右されます。しかし、これはデータという指標をもとに出されていることから客観性のある結果であるのが特徴です。「住みよさランキング」の結果をめぐり、いろいろと話を伺ってみました。

住みよさって  
なんだろう？

## 住んでいる人が、そのまちを 好きだと思えるまち

株式会社東洋経済新報社  
「都市データパック」編集部 山田寿子さん



「住みよさランキング」を公表している「都市データパック」編集部の山田さんに、このランキングの意図するものを伺いました。

「都市データパック」の調査を始めたきっかけや意図はどのようなことでしょうか。

山田 はい、「都市データパック」は1989年4月の創刊です。当社は、「会社四季報」などで知られるように、「文」だけでなく「数字」も重視し、情報を収集・分析することを得意としてきました。企業の活動を伝えるだけでなく、このノウハウを応用し、地域社会に光を当てたデータ収集に乗り出し、そのデータを広く世の中に活用いただける形で提供しようとして創刊しました。「住みよさランキング」は1993年版で初めて公表しました。

私たちが一貫して示したいと考えているのは、「住みよさ」の要素を構成すると考えられる指標を選定し、それらを総合的に数値化することで、地域間を比較可能と

することです。

ランキングという形式をとるのは、その結果を分かりやすく提示するためです。しかし、本質的には、提供するデータそのものを使っていただくことで、各地域の特徴や隠れた魅力など、新たな発見や洞察が生まれることを期待しています。

「評価の指標は現在20項目とありますが指標項目に変化はあるでしょうか。近年新たに加わった項目はありますか。

山田 総合ランキングの評価指標（20項目）は、2019年の冊子大幅リニューアル時の見直し以降、変更していません。ただ、「子育てしやすい自治体」編や、「人口規模別」編などを算出するなど、新しい切り口のランキングを作成しています。

また、「子育てしやすい自治体」編では、安全・安心にかかわる指標のウェイトを高くしたり、「小学校への通学しやすさ」や「保育所の利用のしやすさ」に関する指

標を追加したりして、算出しています。

「人口規模別」編は、特定の人口規模に絞ることで、より実態に即した比較ができるようにと考えました。

このように、基本となる総合ランキングの指標は固定しつつも、ユーザーの関心に応えるため、「子育てしやすい自治体」編などのように新たな切り口や指標を取り入れてランキングを作成しています。

なお、「子ども医療費助成」を指標に入れていることによって、この制度の自治体間の差を埋めるという役割を一定程度、果たしたのではないかと考えています。

## 「住んでよかったまち」へ

大竹市長 入山 欣郎



「住みよさランキング」で、今年も上位に入れたことは、大変よろこばしいことです。これは市民の皆様をはじめ、これまで大竹市のために働いてこられた先人の方々の積み重ねのおかげであると感謝しています。

「住みよさランキング」というのは、あくまでも他市との比較で相対的なものです。「住みよいまち」にしていくなめには、まず自分たちのまちを愛する気持ちが大切だと信じています。大竹には海、山、川という素晴らしい自然がある。働く場がある。安心して暮らせるまちである。そして何より「人」が宝です。

これまで以上に「住みよいまち」であり「住んでよかったまち」であり続けることを願っています。

「18歳まで対象、所得制限なし」というものがスタンダードになってきましたので、この指標に変わるものなど、社会の変化に合わせて、指標の見直しの検討を始めています。

「本ランキングの特徴と、セールポイントはどういったものですか。

山田 政府公表の統計データを正確に扱うのはもちろんのこと、全国の自治体に調査票を送りし、独自情報をいただいていることが特徴です。足りないデータはさらに調査や取材をおこなって集めたり、他の調査で集めた当社の独自データを利用したりしています。

そういった網羅性や、正確性にこだわったデータに基づいているという自負があります。ですので、ランキングの結果（総合順位）に加えて、ぜひご注目いただきたいのが、評価のベースとなっている20の指標データ一つ一つです。それぞれの指標をご覧いただくことで、「この地域にはこんな強みがあったのか」という新たな発見や、ランキング順位だけでは見えてこない地域のリアルな姿を発見する面白さがあると考えています。

（6ページに続く）



住みよさランキングは、全国の市と東京23区（中央区・港区・千代田区を除く）の812市区を対象としたものです。安心度・利便度・快適度・富裕度の4つの視点から、各種統計調査などの20指標を用いて、平均値を50とした偏差値を算出し、順位付けしたものになります。

## 住みよさランキング算出指標

【 】は大竹市の順位

【総合評価20位】

【安心度117位】①人口当たり病院・一般診療所病床数／②老年人口当たり介護保険施設定員数／③20～39歳女性人口当たり0～4歳児数／④子ども医療費助成（対象年齢・所得制限の有無）／⑤人口当たり刑法犯認知件数／⑥人口当たり交通事故件数

【利便度158位】⑦人口当たり小売販売額／⑧人口当たり大規模小売店舗面積／⑨可住地面積当たり飲食料品小売事業所数／⑩人口当たり飲食店数

【快適度140位】⑪転出入人口比率／⑫水道料金／⑬污水处理人口普及率／⑭気候（月平均最高・最低気温、日照時間、最深積雪）／⑮都市計画区域人口当たり都市公園面積

【富裕度331位】⑯財政力指数／⑰人口当たり法人市民税／⑱納税義務者1人当たり所得／⑲1住宅当たり延べ床面積／⑳住宅地平均地価

出展：東洋経済新報社「都市データパック2025」

「住みよさランキング」では、「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」の4カテゴリで評価をしています。「住みよさ」は人それぞれ、またライフステージ（子育て期、老後など）によって、この4カテゴリのどこを最も重視するかが変わってくるものだと考えています。

個人的には、誰もが望むように、「安全で、便利で、緑も多く、気候も穏やか」といった都市が理想的だと感じます。しかし、抽象的な理想として一つ挙げるとすれば、「住んでいる人が、そのまちを好きだと思えるまち」ではないでしょうか。住民や自治体職員の方々が「このまちが好き」という気持ちを持つことで、地域課題の解決への協力やアイデアが生まれやすくなり、その結果、より住みやすいまちへと育っていき、持続的に「住みよいまち」であり続けるように思います。

### 山田さんの視点 大竹市の特徴は

利便性と医療：人口あたりの病院・診療所数が多いこと、また大規模小売店の面積が広いことから、生活に必要な医療と商業の利便性が確保されていると思われます。  
安全・安心：交通事故件数が少ない点は、地域の安全性の高さを裏付けています。  
経済基盤：財政力指数と法人市民税も高いです。化学系の大企業が立地するなど、安定した財政基盤が確保されていることが推測されます。  
さらに、気象条件や、水道料金の安さといった生活コストの面も考慮すると、データからは「都市的な便利さを持ちながら、落ち着いて生活できる」という、質の高い住環境が想像されます。

（5ページの続き）  
―近年上位にランキングされている都市の傾向はありますか。

山田 「住みよさランキング」は20もの指標から総合的に算出されるため一概には言えませんが、上位にランキングする都市には、複合的な強みが見られます。

まずは「子ども医療費助成」のレベルは、前述した「18歳まで対象、所得制限なし」以上の水準であること。それに加えて、全国でトップレベルの指標を何個か持っていること。具体的には、次のような特徴点（セールスポイント）を持つ都市が上位にいます。

- ・高い安全性…非常に治安が良い。
- ・確かな経済力…財政力や企業の集積による経済的な安定性がある。
- ・求心力…商業施設や文化施設など、人を引きつける魅力的な場所や都市機能が集積している。

―大竹市の評価についてお聞きます。本市の結果の特徴は何でしょうか。

山田 大竹市の評価における最大の特徴は、全体的なバランスの良さにあると考えます。貴市は、ランキングを構成する4つの評価カテゴリのうち3カテゴリで100位、150位という安定した順位を獲得されています。これは、極端に低い評価の指標が少なく、どの分野においても標準以上の水準を維持できていることを示しています。

もし市民の方が「ごく普通」と感じておられるなら、その「極端な不満や欠点がない環境」こそが、貴市の強みであり、価値であるとお伝えしたいです。

―「住みよい」と「住みたい」の違いをどう考えられますか。  
山田 「住みたい」は、多分にその町のブランド力が反映される気がします。「憧れ」がプラスされるので、ネームバリューが必要というか。「住みよい」は、実際に住んでいる方々の実感が込められたもの、という気がいたします。

―これは答えにくいかもしれませんが、山田さん自身が「住

住みよさって  
なんだろう？

「住みよさランキング」上位のまちとなった大竹市。市民はそれをどのように受けとめているのでしょうか。「住みよいまち」をどのようなまちと考えているのか聞いてみました。

## 若い人が夢を持てるまち

市自治会連合会 会長 古川和男さん

―大竹市は住みよいまちだと感じていますか。

住みよさランキングの評価は、これまでやってきた流れの中でのものなので、少し高過ぎる評価のように感じます。だから、現在進めている小方まちづくりなどの事業を早く進めてもらい、若い人がまちに興味を示して、大竹に住もうかと思うようになるためにも、このあたりで一步踏み込んで施策を進めてほしいです。

若い人の働く場があるまちです。各企業が雇用の枠を広げることで、若者が夢を持つようになれば、そのまちに住むようになるのでは。東広島市などは開けて、若い人が目を向けるようになっていきます。そんなまちに大竹もなっていかなければいけないと思います。

## 日常生活に不便のないまち

60代前後の夫妻（油見）

―住みよいまちの上位に入っていますが、実感はありますか。

あっちこっち住み比べている訳ではないので、相対的にみて住みよいかどうかは、分かりづらいですね。

―別のまちに住んだことはありますか。

私（夫）は、このまちの出身ではないし、転勤で単身赴任をしたこともあります。

―大竹と比べてどうでしたか。  
東京近辺にいたときは、文化的な楽しみは圧倒的に多いので、かなり物足りなさを感じます。ただ、治安という面では、東京の住環境はあまりよろしくないようです。そういう長所や短所が東京などと比べると差が激しいと思います。

―住みよいまちというのは、どのようなまちでしょうか。

年齢によって変わっていくと思いますが、私たちの年齢だと、近場で病院や日常の買い物がないと、治安がよいとかでしょ

うか。そういうものが充実しているところが住みよいまちだと思います。若かったらエンタメ（娯楽）とか、そういうことが優先されるかもしれませんが。

## 子育てしやすいまち

角川玲奈さん（35歳 新町）

―小学校3年、1年、4歳の子どもがいるお母さんに聞いてみました。住みよさが全国で20位なんです。

実感はないです（笑）

―住みよいまちとは、どういうまちだと思いますか。

子育てしやすいまちだと思います。大竹は医療費が無償だった

り、そういう金銭的な支援が助かります。年をとると優先順位は変わるかもしれませんが…。

（沖繩に住みたい。海がきれいだから）と子どもたちの声）

## 「住みたいまち」は「住みよいまち」か？

「吉祥寺だけが住みたい街ですか？」という漫画やドラマがあります。人気のまち吉祥寺に憧れて不動産屋を訪れますが、紹介されるのは、吉祥寺以外のまち。しかし憧れのまちではないものの、どのまちにも知られざる魅力があることを発見するというお話です。単なる憧れではなく、「住みよさランキング」の結果に一喜一憂することなく「住みよいまち」「住み続けたいまち」「住んでよかった」、そう実感できるまちになることが求められていると思います。（取材 企画財政課）